

依命留学報告書

学科名 地域創成科学科

職名 准教授

氏名 下嶋 聖

1. 留学先

ウィーン自然資源及び応用生命科学大学(BOKU)(オーストリア)

2. 研究課題 レクリエーション地域及び保護地域における自然資源の持続可能な利用 ・管理に関する研究

3. 留学期間 2023年10月1日～2024年9月30日

4. 留学期間中の活動報告

留学者はこれまで、自然遷移に加え気候・社会変動により変容する国立公園内のトレイルや展望地など公園施設の維持管理について、景観工学的及び景観生態学的なアプローチと空間情報技術を活用した景観及び自然資源の持続性とレジリエンスに関する研究を行ってきた。持続可能な自然資源管理と開発は、地域のステークホルダーのニーズや欲求と、様々な生物が生育・生息する多様で複雑な生態系との橋渡しをする必要があり、地球規模において重要な目標である。特に近年では、気候・環境・社会危機の枠組みにおける自然レクリエーション資源の適切な管理が求められている。

留学中の研究目的は、レクリエーション地域及び保護地域における自然資源の持続可能な利用・管理について、自然を基盤とする解決策(NbS:Nature-based Solutions)に関する気候変動適応行動や順応的ガバナンスの手法に関する実態把握及び研究手法の構築である。具体的には、山岳地における登山や観光利用に伴う直接・間接的に生じる環境インパクトによる社会環境への環境負荷の解明と、登山道や山小屋などレクリエーション地域内の施設に関する維持管理手法と地域のステークホルダーによる関与実態の把握を行った。

留学滞在期間中に、気候変動の影響を最も受ける地域であるヒマラヤを対象に、ネパール・エベレストにあるサガルマータ国立公園と中央部にあるマナスル保全地域において、登山及びトレッキング利用で生じる環境負荷の実態解明に向けた現地調査を実施した。一方、オーストリア国内においては、登山道管理の実態把握を行った。これら調査から得られた結果は、3件の国際学会(ISDRS(International Sustainable Development Research Society)・6月ネパール、IASNR(International Association for Society and Natural Resources)・オーストラリア、MMV12(International Conference on Monitoring and Management of Visitors in Recreational and Protected Areas)・ドイツ)の国際学会にて口頭発表を行った。また教育面においては、同上のMMV12に参加した本研究室の博士課程の学生のポスター発表の指導を行った。

以上のように、研究・教育両面において充実した留学となった。